

注意事項

1. 試験問題の数は 75 問で解答時間は正味 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) 各問題には 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)では 1 つ、(例 2)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。

(例 1) 101 斜視角の測定法はどれか。

1. アノマロスコープ
2. Frisby stereo test
3. Hirschberg 法
4. logMAR 値測定
5. PL 法

(例 2) 102 斜視角の測定法はどれか。2 つ選べ。

1. アノマロスコープ
2. Krimsky 法
3. Hirschberg 法
4. logMAR 値測定
5. PL 法

(例 1) の正解は「3」であるから答案用紙の ③ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④	⑤
			↓		
101	①	②	●	④	⑤

答案用紙②の場合、

101	101
①	①
②	②
③	→ ●
④	④
⑤	⑤

(例 2) の正解は「2」と「3」であるから答案用紙の ② と ③ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	①	②	③	④	⑤
			↓		
102	①	●	●	④	⑤

答案用紙②の場合、

102	102
①	①
②	●
③	→ ●
④	④
⑤	⑤

- (2) ア. (例 1) の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。
- イ. (例 2) の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

- 1 平滑筋はどれか。2つ選べ。
 1. 心筋
 2. 眼輪筋
 3. 瞼板筋
 4. 胃壁の筋
 5. 上眼瞼挙筋

- 2 視神経の機能と構造について誤っているのはどれか。
 1. 髄鞘がある。
 2. 500万本の神経線維からなる。
 3. 外側膝状体でシナプスを形成する。
 4. 網膜神経節細胞の軸索で構成される。
 5. 脳圧が上昇すると軸索流がうっ滞する。

- 3 動眼神経が支配するのはどれか。2つ選べ。
 1. 眼輪筋
 2. 上斜筋
 3. 瞼板筋
 4. 毛様体筋
 5. 瞳孔括約筋

- 4 Down症候群について誤っているのはどれか。
 1. 内斜視の頻度が高い。
 2. 精神発達遅滞がみられる。
 3. ミトコンドリア遺伝病である。
 4. 高齢出産で発生頻度が増加する。
 5. 吊り上がった小さい目を特徴とする。

- 5 自己免疫疾患はどれか。
1. 網膜分離症
 2. 網膜色素変性
 3. 錐体ジストロフィ
 4. Vogt-小柳-原田病
 5. 中心性漿液性脈絡網膜症
- 6 脱髄疾患はどれか。
1. Parkinson 病
 2. 重症筋無力症
 3. 多発性硬化症
 4. サルコイドーシス
 5. 外眼筋ミオパチー
- 7 後毛様体動脈が分布する組織はどれか。2つ選べ。
1. 眼 瞼
 2. 涙 腺
 3. 網 膜
 4. 視神経
 5. 脈絡膜
- 8 近見反応で正しいのはどれか。2つ選べ。
1. 暗室では反応が得られない。
 2. 近見反応中枢は後頭葉にある。
 3. 固視標がぼやけても縮瞳する。
 4. 輻湊眼位が崩れると散瞳する。
 5. 測定では固視標を素早く眼前に近づける。

- 9 遮光眼鏡で正しいのはどれか。2つ選べ。
1. 羞明を防ぐために使う。
 2. 緑内障患者には適応はない。
 3. 短波長領域の透過率を上げる。
 4. 暗順応が低下するときには遮光眼鏡を外す。
 5. 公的補助を受けるには医師の意見書は不要である。
- 10 血液感染で発症するのはどれか。2つ選べ。
1. 結核
 2. 水痘
 3. 梅毒
 4. 麻疹
 5. B型肝炎
- 11 外眼筋について正しいのはどれか。
1. 上斜筋の起始部は滑車である。
 2. 上斜筋のまつわり距離が最も長い。
 3. 上下斜筋の眼球付着部は回旋点の後方にある。
 4. 上下斜筋は23度内転位で上下転作用が最大となる。
 5. 角膜輪部から付着部の位置が最も遠い直筋は下直筋である。
- 12 輻湊と開散について正しいのはどれか。
1. 輻湊の幅は開散の幅より小さい。
 2. 3D映像では輻湊と調節の乖離が起こる。
 3. 開散麻痺では近見時にプリズムを装用する。
 4. 近接性輻湊は運動性融像の主たるものである。
 5. 輻湊麻痺のプリズム療法ではプリズムを基底外方に置く。

- 13 先天赤緑色覚異常について正しいのはどれか。
1. 第一異常の頻度が高い。
 2. 石原表で程度判定を行う。
 3. 日本人男性保因者は約5%である。
 4. 第一異常では長波長側での感度が低下する。
 5. パネル D-15 でパスした場合は正常色覚と判定する。
- 14 5名の logMAR 値が -0.2、-0.1、0.3、0.5、1.0 である。
logMAR の平均値を小数視力に換算した値はどれか。
1. 0.1
 2. 0.2
 3. 0.3
 4. 0.4
 5. 0.5
- 15 レンズメータにより眼鏡レンズのプリズム度数を測定する位置で正しいのはどれか。
1. 前額面位置
 2. 主平面位置
 3. 基底面位置
 4. 最小偏角位置
 5. Prentice の位置
- 16 隅角が直接観察できない光学的な理由で正しいのはどれか。
1. 偏光
 2. 屈折
 3. 回折
 4. 干渉
 5. 全反射

- 17 正視眼の角膜屈折率のみが低下する場合、正しいのはどれか。2つ選べ。
1. 角膜前面の面屈折力は増加する。
 2. 角膜後面の屈折効果は弱くなる。
 3. 角膜全体の屈折力は増加する。
 4. 眼球全体の屈折力は増加する。
 5. 眼の屈折度は遠視化する。
- 18 乳児の屈折検査に使用するのはいずれか。
1. オイテスコープ
 2. ボンノスコープ
 3. レチノスコープ
 4. ドットカード
 5. ビズスコープ
- 19 屈折矯正で正しいのはどれか。
1. 遠点位置と矯正レンズの後頂点を合わせる。
 2. 近点位置に矯正レンズの前頂点を合わせる。
 3. 遠点位置と矯正レンズの第1主点を合わせる。
 4. 近点位置と矯正レンズの第2節点を合わせる。
 5. 遠点位置と矯正レンズの第2焦点を合わせる。
- 20 完全矯正で眼鏡からコンタクトレンズに替えたときに近業時に調節や輻湊の負担が軽減するのはどれか。2つ選べ。
1. 外斜視の遠視
 2. 外斜位の近視
 3. 上下斜位の近視
 4. 遠視の初期老視
 5. 近視の初期老視

21 診療録について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 診療録は法律用語ではない。
2. 個人情報保護のため患者の住所は診療録に記載しなくても良い。
3. 診療録とは医師が患者の診療内容等を記載した文書のことである。
4. 電子媒体による診療録は作成した病院で保存することが義務付けられている。
5. 保険医療機関は患者の診療完了の日から5年間は診療録を保管しなければならない。

22 Teller acuity card で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 対比視力を測定する。
2. 眼球運動を観察する。
3. 嫌悪反射を定量する。
4. 最小分離閾を評価する。
5. 視運動眼振を誘発する。

23 クロスシリンダーによる乱視の測定法で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 常に最小錯乱円が網膜上に位置する状態で検査を行う。
2. 後焦点を前後させたときの見え方を比較して乱視を矯正する。
3. 検査中は増減する乱視度数の1/2の同一符号の球面レンズを加える。
4. $\pm 0.25\text{ D}$ のクロスシリンダーは $+0.25\text{ D} \text{ } \ominus \text{ cyl } -0.50\text{ D}$ のレンズである。
5. 最高視力が出る球面レンズに予想乱視度数の1/2の球面凸レンズを加入して検査を行う。

- 24 中心フリッカ検査について正しいのはどれか。2つ選べ。
1. 網膜疾患を評価する。
 2. 加齢による影響はない。
 3. 心理物理測定法である。
 4. 時間的分解能を測定する。
 5. P細胞系の機能を評価する。
- 25 赤緑眼鏡で左右眼を分離する検査のうち赤眼鏡を通して赤い視標、緑眼鏡を通して緑の視標が見えるのはどれか。2つ選べ。
1. Hess 赤緑試験
 2. New aniseikonia test
 3. New stereo test
 4. TNO stereo test
 5. Worth 4 灯試験
- 26 完全矯正下で、眼前に +3.00 D のレンズを装用すると斜視角が変化するのどれか。2つ選べ。
1. 周期内斜視
 2. 輻湊不全型外斜視
 3. 部分調節性内斜視
 4. 非屈折性調節性内斜視
 5. 見かけ上開散過多型間欠性外斜視
- 27 回旋偏位の計測に用いるのはどれか。2つ選べ。
1. 牽引試験
 2. Hess 赤緑試験
 3. 大型弱視鏡検査
 4. 眼底写真撮影法
 5. 両眼注視野検査

- 28 視診による眼球運動検査で正しいのはどれか。2つ選べ。
1. 外転は角膜外縁が外眼角まで達すれば正常と判断する。
 2. 単眼のひき運動を調べてから両眼のむき運動を調べる。
 3. 頭位異常があるときは自然な頭位で眼球の動きを調べる。
 4. 上転は瞳孔下縁が内外眼角を結ぶ線上に達すると正常と判断する。
 5. 内転は瞳孔内縁が上下涙点を結ぶ線まで達すると正常と判断する。
- 29 我が国の成人の外眼部で正しいのはどれか。
1. 瞼裂縦径の平均値は9 mm である。
 2. 瞼裂横径の平均値は35 mm である。
 3. 眼球突出度の平均値は18 mm である。
 4. 上眼瞼挙筋機能は6 mm が正常である。
 5. 上眼瞼縁は角膜上縁から5 mm 下方に位置する。
- 30 明室と暗室のいずれでも瞳孔不同を示さないのはどれか。
1. 片眼性視神経炎
 2. 片眼性瞳孔緊張症
 3. 片眼性動眼神経麻痺
 4. 片眼性 Horner 症候群
 5. 片眼性急性閉塞隅角緑内障
- 31 散瞳型眼底カメラについて正しいのはどれか。2つ選べ。
1. リング照明である。
 2. 観察光量は撮影光量に影響する。
 3. 接眼レンズの視度調節は必要ない。
 4. ピントグラスはすりガラスである。
 5. 反射防止のため対物レンズの裏に黒点がある。

32 隅角鏡検査が有用でない疾患はどれか。

1. 緑内障
2. 円錐角膜
3. 眼球打撲
4. Behçet 病
5. 糖尿病網膜症

33 OCT(光干渉断層計)画像(別冊No. 1)を別に示す。

正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 右眼である。
2. 垂直断面図である。
3. 中心窩は正常である。
4. 定量解析画像である。
5. 高反射は黒く表されている。

別 冊 No. 1

34 ERG 検査の際、波形にノイズが混入するのはどれか。

1. 無散瞳
2. 強い閉瞼
3. 涙液過多
4. 電極への気泡混入
5. 電極のセンタリング不良

35 点眼薬で正しいのはどれか。

1. 球後には到達しない。
2. 角膜を通して眼内へ移行する。
3. 複数種類の点眼は1分間隔で行う。
4. 冷所保存は眼内移行促進が目的である。
5. 効果を増すためには1回の点眼量を増やす。

36 アデノウイルスの院内感染対策で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 感染者に接触した手は流水で十分に洗い流す。
2. 院内感染が発生したら関係者以外のスタッフには口外しない。
3. 結膜炎が疑われる患者でも診断が確定するまでは通常の患者と同等に扱う。
4. 高濃度の消毒用アルコールによる医療器具の清拭は感染防止に有効である。
5. 点眼瓶の先端が患者の睫毛に触れた場合は汚染部をペーパータオルで拭き取る。

37 眼部帯状疱疹で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 小児に多い。
2. 神経痛を伴う。
3. 水疱性皮疹を生じる。
4. 顔面神経領域に生じる。
5. アデノウイルスによる感染症である。

38 涙液分泌減少をきたすのはどれか。

1. 涙点閉鎖
2. 涙小管炎
3. 鼻涙管狭窄
4. 急性涙嚢炎
5. 慢性涙腺炎

- 39 角膜上皮のみの欠損による疾患はどれか。
1. 角膜白斑
 2. 円錐角膜
 3. 角膜潰瘍
 4. 角膜変性
 5. 角膜びらん
- 40 網膜中心動脈閉塞症について正しいのはどれか。2つ選べ。
1. 夜盲を訴える。
 2. 両眼性が多い。
 3. 網膜剝離を伴う。
 4. 急激な視力低下を伴う。
 5. 桜実紅斑(cherry red spot)を認める。
- 41 眼窩壁骨折について正しいのはどれか。2つ選べ。
1. 外壁骨折が多い。
 2. 眼球陥凹をきたす。
 3. 感染症を合併する。
 4. 角膜知覚が低下する。
 5. 頭部 CT が診断に有用である。
- 42 立体視を認めるのはどれか。
1. 微小斜視
 2. 感覚性斜視
 3. 術後内斜視
 4. 固定内斜視
 5. 恒常性外斜視

43 重症筋無力症の診断に有用でないのはどれか。

1. 筋電図
2. 電気眼振図
3. 自己抗体検査
4. アイステスト〈冷却テスト〉
5. テンシロン(エドロホニウム塩化物)試験

44 海綿静脈洞症候群で障害されないのはどれか。

1. 視神経
2. 滑車神経
3. 交感神経
4. 三叉神経
5. 動眼神経

45 小脳の障害で生じるのはどれか。2つ選べ。

1. 解離性眼振
2. 下向き眼振
3. シーソー眼振
4. 輻湊後退眼振
5. 周期交代性眼振

46 紫外線と関係する眼疾患はどれか。2つ選べ。

1. 白内障
2. 黄斑円孔
3. 電気性眼炎
4. 角膜パンヌス
5. Stevens-Johnson 症候群

47 片眼の下斜筋単独麻痺に似た所見を呈するのはどれか。

1. Brown 症候群
2. double elevator palsy
3. Duane 症候群
4. Fisher 症候群
5. Gradenigo 症候群

48 4Δ 基底外方試験で右眼微小斜視にみられる典型的な所見はどれか。

	固視運動	共同運動	融像運動	複 視
1. 右眼挿入時	あり	あり	あり	あり
2. 右眼挿入時	あり	あり	なし	なし
3. 左眼挿入時	なし	なし	なし	なし
4. 左眼挿入時	あり	あり	なし	なし
5. 左眼挿入時	あり	あり	あり	あり

49 斜視の型、原因筋および頭位異常の組合せで正しいのはどれか。

1. A 型内斜視 ——— 下斜筋不全 ——— 顎下げ
2. A 型外斜視 ——— 上直筋不全 ——— 顎下げ
3. A 型内斜視 ——— 外直筋不全 ——— 顎上げ
4. V 型内斜視 ——— 上直筋過動 ——— 顎下げ
5. V 型外斜視 ——— 内直筋過動 ——— 顎下げ

50 不同視弱視の訓練で正しいのはどれか。

1. 弱視眼に遮閉具を貼る。
2. 健眼の屈折矯正は不要である。
3. 健眼に Bangerter 遮閉膜を装用する。
4. 弱視眼にアトロピン硫酸塩を点眼する。
5. 健眼にジスチグミン臭化物を点眼する。

51 V型外斜視に対する術式で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 外直筋上方移動
2. 外直筋下方移動
3. 内直筋上方移動
4. 内直筋下方移動
5. 上斜筋縫縮術

52 斜視手術の合併症で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 筋喪失は自然治癒を待つ。
2. 前眼部虚血では散瞳する。
3. 縫合不全で眼球運動障害を起こす。
4. 外斜視の過矯正では交差性複視となる。
5. 医原性 Brown 症候群は前後転術の合併症である。

53 病態と使用するプリズムの組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 偏心固視 ————— 過矯正プリズム
2. 残余斜視角 ————— 中和プリズム
3. 網膜異常対応 ————— 逆プリズム
4. 斜視眼抑制野 ————— 垂直プリズム
5. 眼振阻止症候群 ————— バージョンプリズム

54 動眼神経麻痺のプリズム療法で正しいのはどれか。

1. 発症直後に行う。
2. 麻痺筋の作用方向での斜視角を中和する。
3. 固視眼にプリズムを装用すると定位の誤認が誘発される。
4. プリズムの基底を斜め方向に装用すると回旋複視が中和される。
5. 麻痺眼に装用すると健眼に装用するよりプリズム度数が少ない。

55 非屈折性調節性内斜視の治療に適した眼鏡レンズはどれか。2つ選べ。

1. 単焦点レンズ
2. 二重焦点レンズ
3. 三重焦点レンズ
4. プリズムレンズ
5. 累進屈折力レンズ

56 輻湊麻痺の治療で正しい方法はどれか。

1. 輻湊訓練を行う。
2. 心理療法を行う。
3. 両内直筋の後転術を行う。
4. 二重焦点レンズを装用する。
5. 基底内方プリズム眼鏡を近見時に装用する。

57 ペナリゼーションで誤っているのはどれか。

1. 眼鏡装用は必要である。
2. 潜伏眼振に有用である。
3. 固視異常に適応となる。
4. 両眼視機能に配慮している。
5. 重複障害を持つ場合に有用である。

58 接眼部に +6.00 D が組み込まれている大型弱視鏡で瞳孔間距離 58 mm の患者に検査をした。

大型弱視鏡の瞳孔間距離設定で 3Δ 基底外方効果を生じるのはどれか。

1. 53 mm
2. 55 mm
3. 61 mm
4. 63 mm
5. 65 mm

59 大型弱視鏡で +19° の位置で Pemberton 法を実施した。自覚的斜視角は +8° であった。

他覚的斜視角はどれか。

1. +16°
2. +22°
3. +27°
4. +30°
5. +38°

60 視能訓練が適応となるのはどれか。2つ選べ。

1. 抑制
2. 不等像視
3. 輻湊不全
4. 単眼複視
5. 二重対応

61 flashing method について誤っているのはどれか。

1. 斜視眼を flashing する。
2. 視標は光視標を用いる。
3. 斜位化を目的としている。
4. 最も深い抑制については暗室から行う。
5. 深い抑制には uncover の時間を長くする。

62 生理的眼振でないのはどれか。

1. 温度眼振
2. 終末位眼振
3. 視運動眼振
4. 頭位変換眼振
5. 輻湊後退眼振

63 大型弱視鏡の他覚的斜視角が $+10^\circ$ で、このときのスライドの見え方は交差性である。

正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 正常対応
2. 対応欠如
3. 二重対応
4. 調和性異常対応
5. 不調和性異常対応

64 斜位近視について誤っているのはどれか。

1. 両眼開放時の屈折値で眼鏡を作成する。
2. 輻湊性調節が原因である。
3. 眼精疲労がみられる。
4. 縮瞳がみられる。
5. 成人に多い。

65 外斜位の遮閉試験で正しいのはどれか。

1. 右眼遮閉除去で両眼ともに動かない。
2. 右眼遮閉時に左眼は外方から中央に復位する。
3. 右眼遮閉時に左眼は動かず遮閉下の右眼も動かない。
4. 右眼遮閉除去で右眼固視となり左眼は外方偏位する。
5. 右眼遮閉除去で右眼は外方から中央に戻り左眼は動かない。

66 55歳の女性。近方視が不自由になったため来院した。視力は右眼0.7(1.2×-1.00 D)、左眼0.7(1.2×-1.00 D)。裸眼での近点距離は50 cmである。

33 cmに焦点を合わせる眼鏡レンズはどれか。

1. +0.50 D
2. +1.00 D
3. +1.50 D
4. +2.50 D
5. +3.00 D

67 53歳の男性。網膜色素変性の疑いでGoldmann視野計による動的量的視野検査を行った。右眼のV/4とI/4イソプタの測定を終えた途中経過(別冊No. 2)を別に示す。

I/3イソプタの測定のために赤丸の部位(①~⑧)から視標を提示し、矢印の方向へ動かすとき、効率的な組合せはどれか。

1. ①④⑧
2. ①⑤⑥
3. ②③⑥
4. ②③⑦
5. ④⑦⑧

別冊
No. 2

68 7歳の女兒。眼位異常を主訴に来院した。視力は右0.3(1.0×+2.00D⊖cyl-2.00D90°)、左0.4(1.0×+2.25D⊖cyl-1.50D90°)である。眼球運動に異常は認めない。眼位と単眼の固視状態の写真(別冊No. 3)を別に示す。

眼位の定量に適した検査はどれか。2つ選べ。

1. 正切尺法
2. 大型弱視鏡検査
3. プリズム交代遮閉試験
4. Hirschberg法
5. Krimsky法

別冊

No. 3

69 27歳の男性。交通外傷後に斜め左上を見る時に違和感を感じるため来院した。視力は右1.2(矯正不能)、左1.2(矯正不能)である。頭を左に傾けており、正面視で右眼上斜視を認める。視診による9方向むき眼位写真(別冊No. 4A)とBielschowsky 頭部傾斜試験(別冊No. 4B)とを別に示す。大型弱視鏡で測定した9方向むき眼位を次に示す。

	左眼固視		上方	
	+2° R/L 10° EX 8°		+1° R/L 5° EX 8°	
左方	+6° R/L 9° EX 8°		+5° R/L 5° EX 10°	右方
	+6° R/L 8° EX 11°		+7° R/L 3° EX 7°	
			下方	

大型弱視鏡で再検査が必要なむき眼位はどれか。

1. 第1眼位
2. 上方視と下方視の水平斜視角
3. 右方視と左方視の上下斜視角
4. 右下方視と左下方視の回旋斜視角
5. 左上方視と左下方視の上下斜視角

別冊
No. 4 A、B

70 64歳の男性。左眼で新聞の字が見づらくなり、ノートの罫線がゆがんで見えることに気付いたため来院した。眼底写真(別冊No. 5)を別に示す。

検査で診断に**不要**なのはどれか。

1. 視力検査
2. 蛍光眼底造影
3. Amsler チャート
4. OCT〈光干渉断層計〉
5. 超音波 B モード検査

別 冊
No. 5

71 53歳の男性。階段から転落し右眼の視力低下を自覚した。視力は右眼0.8(矯正不能)、左眼1.0(矯正不能)。眼底は正常である。両眼開放時の瞳孔、swinging flashlight test 対光反射の写真(別冊No. 6A)と Humphrey 視野計による静的視野(別冊No. 6B)とを別に示す。

考えられるのはどれか。

1. 外傷性散瞳
2. 外傷性虹彩炎
3. 外傷性白内障
4. 外傷性視神経症
5. 身体表現性障害(心因性視機能障害)

別 冊
No. 6 A、B

72 3歳6か月の女児。3歳児健康診査で眼位異常を指摘され来院した。視力は右1.0(1.0×+0.50D)、左1.0(1.0×+0.50D)。調節麻痺薬点眼後の他覚的屈折値(+1.00D)装用下での眼位は、交代プリズム遮閉試験で遠見、近見ともに40Δ内斜視。裸眼の眼位は、遠見、近見ともに45Δ内斜視。前眼部と眼底に異常はない。

疾患で考えられるのはどれか。2つ選べ。

1. 乳児内斜視
2. 基礎型内斜視
3. 部分調節性内斜視
4. 屈折性調節性内斜視
5. 非調節性屈折性内斜視

73 60歳の男性。加齢黄斑変性で加療していたが、近見視力は右0.1(矯正不能)、左0.02(矯正不能)となり、読書困難を訴えている。

対応として適切でないのはどれか。

1. 遮光眼鏡を試す。
2. ルーペを貸し出す。
3. 至近距離眼鏡を試す。
4. 拡大読書器を使用する。
5. プリズム眼鏡を装用する。

74 57歳の女性。若いころの頭部外傷後に発症した眼位異常と眼瞼下垂を主訴に来院した。視力は右0.4(0.9×-1.25D○cyl-1.75D10°)、左1.0(矯正不能)で、正面視では左眼が外下斜視で意識すると複視を自覚する。9方向むき眼位写真(別冊No. 7A)と右眼固視・左眼固視の正面視写真(別冊No. 7B)とを別に示す。

治療方針で適切なのはどれか。

1. 斜視の手術を行う。
2. 眼瞼下垂の手術を行う。
3. 抗コリンエステラーゼ薬を内服する。
4. 正面視での複視をプリズムで矯正する。
5. 斜視の手術を行い、その後眼瞼下垂の手術を行う。

別冊 No. 7 A、B

75 50歳の女性。複視を主訴に来院した。視力は右1.2(矯正不能)、左1.2(矯正不能)である。正面眼位は右内下斜視で、上下偏位が水平偏位の2倍程度であった。

プリズムを用いて矯正するとき、基底方向で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 右眼：120°
2. 右眼：225°
3. 右眼：330°
4. 左眼：150°
5. 左眼：330°

